

活動の概要

今年度は、a-Labo（アート領域でのドリームコアでの発表）での発表もあり、1）昨年2011年度に発表した二つのインスタレーション作品『二番目の埋葬』、『遷移状態』の考察と、それを踏まえて次作品に向けての模索を行った。また学外での発表もあり、2）これまでに制作してきたインスタレーション作品の整理と考察に時間を費やすこととなった。

学内プロジェクトでは、「ATP（アートを／で考えるプロジェクト）」を立ち上げ、それに関わる学外展示（京都、大垣）の企画および実施の支援を行った。

学内外で携わったプロジェクト等の活動

1 ATP（アートを／で考えるプロジェクト）による展覧会『D/A 複合体』の開催

【概要】

2012年8月28日（火）から9月16日（日）までの三週間、京都の「ギャラリー9」において、本プロジェクト2年生6名による展覧会『D/A 複合体』を開催。

D/A1 8/28-9/2 : 「デジタル / アナログ Digital / Analog」 栗原寿行×田中誠人

D/A2 9/4-9/9 : 「死 / 生 Dead / Alive」 藤堂高行×増田真栄

D/A3 9/11-9/16 : 「幻想 / 現前 Delusion / Appearance」 都築透×吉田めぐみ

2 ATP プロジェクトによる、平成24年度「大垣市アートフルタウン事業」への展示参加

【概要】

2012年9月28日（金）から11月4日（日）まで大垣市主催の「大垣市アートフルタウン事業」が開催された。ぎふ清流国体の時期に合わせ、大垣市の中心市街治の空き店舗や既存のギャラリー、奥の細道むすびの地記念館などで「アート」作品を展示する企画。

1、2週目：都築透 3週目：増田真栄、4週目：藤堂高行、
5週目：山田聡、6週目：廣瀬周士、中上淳二

3 a-Laboでの発表および参加

① 2012年6月28日

シリーズ「a.Labo からの応答」第三回 P-day 安藤泰彦（現代美術・メディアアート）

『応答 — 『二番目の埋葬』 『遷移状態』（KOSUGI+ANDO作品）を中心に』

【概要】

2011年発表の二作品『二番目の埋葬』（神戸）と『遷移状態』（大阪）を「3.11」の地震・津波震災と原発事故への応答としてとらえ、問題点やコンセプトを中心に発表。



2012年度 活動報告書

② 2012年7月4日

シリーズ「a.Labo からの応答」 第三回 D-day 小林昌廣（批評家）+ 安藤泰彦
『KOSUGI+ANDOへの応答～埋葬される赤子、あるいは赤子の夢』

【概要】

前の週に行ったプレゼンテーションを踏まえた小林昌廣の応答と、氏との対談。

③ 2013年1月31日

「身体をさがす」 小林昌廣X安藤泰彦クロストーク

【概要】

身体をテーマに、原発事故を振り返りつつ、また医療、芸能、現代アートなどの側面から対談。

4 小学生ワークショップの開催、2012年、2月23日、24日

【概要】

修了制作展「IAMAS2013」における「小学生ワークショップ」の実施。

総合学B（山田晃嗣、J.ギブソン共同担当）での「ワークショップ企画」の実施（2グループ）。

社会活動（地域活動）

- ・「大垣イルミネーション」委員

平成15年大垣イルミネーション開催に向けての実行委員会参加

学外での個人活動（講演など）

- ・ リレートーク | 50 years of galerie16 【1990年代】 パネラーとして参加

9月28日（金）18:30～20:30 京都

「ギャラリー16 50周年記念」90年代リレートークでの発表

発表内容：

アーティストユニット「KOSUGI+ANDO」としての、1980年後半から1990年代におけるインスタレーション作品の展開について。

- ・ 1980年代後半における、インスタレーションの展開
- ・ 1990年代からの、メディア（映像・コンピュータ等）の作品使用と作品の変容